

### (3) ESD for 2030 学び合いプロジェクト

#### ●業務目標

一般的な公立中学校における SDGs の視点を取り入れ、取り組みやすさに視点をあいたキャリア教育カリキュラムの構築を行う。

ESD センターでは、昨年度より 2 ヶ年プロジェクトとして、熊本市立城南中学校と連携した一般的な公立中学校における SDGs の視点を取り入れたカリキュラムの構築の支援を行った。

#### 【成果】

- ・公立中学校の総合的な学習の時間における、SDGs を活用したキャリア教育（全学年／2年間）の取組を通して、カリキュラムの段階に応じて〈入門〉→〈基礎〉→〈展開〉・〈応用〉と SDGs を効果的に活かすモデルパターンの構築を図った。
- ・学び合いの場において、キャリア教育のみならず、各教科における活用も視野に全国の実践者や専門家、地域 ESD 拠点等と連携を深めることができた。
- ・2 年間の実践をもとに SDGs を活用したキャリア教育のカリキュラムアイデア集を作成した。



#### ア、【学び合いの場】

日時：令和 4 年 4 月 27 日（水）

内容：城南中学校の教職員研修

- ・これまでの城南中学校での SDGs を活かしたキャリア教育の実践の共有
- ・講話「SDGs を教育の中でどう活かすか」熊本大学大学院教育学研究科 宮瀬教授

参加人数：城南中学校全教職員 30 名

日時：令和 4 年 12 月 20 日（火）

内容：SDGs を活用したキャリア教育活動 ふりかえり座談会

- ・教職員研修（令和年 4 月・8 月、令和 5 年 4 月・8 月）のふりかえり
- ・学年、クラスでの実践のふりかえり
- ・専門アドバイザー（宮瀬教授）、九州地方環境事務所からのコメント
- ・今後の取り組みに向けた支援ニーズ

参加人数：城南中学校の校長・教頭・担当教職員・、地域コーディネーター 岡氏、熊本大学大学院教育学研究科 宮瀬教授、九州地方環境事務所、九州地方 ESD 活動支援センター 10 名

## イ、【実践活動】

日時：令和4年8月5日（金）9:00-11:10

主催：九州地方 ESD 活動支援センター

共催：国立大学法人福岡教育大学

協力：熊本市城南中学校

後援：熊本市教育委員会

内容：「SDGs を活用したカリキュラム研修」（オープン、オンライン）

参加人数：城南中学校教員、他校の小・中学校教員、教育委員会、地域 ESD 拠点  
対面 30 名、オンライン 25 名

### プログラム

1. 挨拶 熊本市立城南中学校 校長 猪西 信行 氏
2. 趣旨説明 九州地方 ESD 活動支援センター
3. 講演 大牟田市教育委員会 指導室 室長 杉野 浩二 氏  
「SDGs を活用したキャリア教育について」
4. 取組紹介 熊本市立城南中学校 教諭 村上 隆幸 氏  
「熊本市立城南中学校での 2 年目の取組状況報告」
5. コメント 熊本市教育委員会 学校改革推進課 上野 正直 氏
6. 意見交換 進行（コーディネーター）  
熊本大学大学院教育学研究科 教授 宮瀬 美津子 氏
7. 謝 辞 熊本市立城南中学校 教頭 前田 路子 氏



## ウ、モデルカリキュラムの作成

2年間のSDGsを活用したキャリア教育活動について、城南中学校の教職員、地域コーディネーターの岡氏、熊本大学大学院教育学研究科の宮瀬教授とともに、これまでの実践をふりかえり、学校現場でSDGsを活用する際の工夫や必要とされる支援ニーズについて意見交換を行った内容をもとに、カリキュラムアイデア集を作成した。

### 「SDGs を活用したキャリア教育～カリキュラムアイデア集～」

1 資料の活用についての説明

2 城南中学校での実践事例の紹介

実際に中学校で展開された学年ごとのカリキュラム概略と授業の要点のまとめ、3つの学年での取組やつながりなど、カリキュラム全体像を示す。

3 指導略案と資料

入門・基礎・展開・応用編のSDGsの活用を学びの段階に応じて区分し、それぞれのモデル的な授業例を紹介。各ステップはモジュール（学びのまとまり）として、学校・学年・クラスの状況に応じて活用していただくことができる。

## 工、全国 ESD フォーラムとの連携

日時：令和4年12月10日（土）

内容：

ESD 推進ネットワーク全国フォーラム 2022

「実践的・包括的な SDGs 人材育成を目指して～気候変動教育からはじめよう～」

今年度の ESD 推進ネットワーク全国フォーラムにおける全国の ESD 推進事例の紹介にあわせ、会場ロビーでのポスターセッションにて、九州 ESD 活動支援センターでの実践を全国の ESD 実践団体とともに報告・共有を行った。



### ○九州地方ESD活動支援センター

## 学びのステップに応じたSDGsの活用×地域ぐるみのESD活動推進に向けて 中学校におけるSDGsを活用したキャリア教育



## (4) 地域脱炭素実現に資する気候変動教育実施体制構築

### ●業務目標

地域脱炭素社会実現に資する気候変動教育を行っているステークホルダー（例：温暖化防止活動推進センター、環境カウンセラー、地方自治体における環境教育指導者派遣制度等）の学校や企業等における活動の活性化に向けて、これらのステークホルダーが協働して気候変動教育活動を実施する体制の構築を支援する。

### ■成果

九州・沖縄の地域センターとの連携・ネットワーク基盤を形成することができた。また、気候変動教育・ESDに関する全国での動向について、ブロック会議等で情報提供を行い、各地域での教育活動についての状況を把握するとともに、長崎市センターとの意見交換をとおして、EPO/ESDセンターと地域センターが連携して人材育成等に取り組む方向性についても認識の共有を図った。

### ア、地域温暖化防止活動推進センターとの連携

#### ①地域センターとのネットワーク形成

	今年度の連携状況	連携実績
福岡県センター	5/19 現地訪問	過年度推進員 SDGs 研修協力
佐賀県センター	5/6 オンライン打ち合わせ、5/19 現地訪問、3/23 現地訪問	EPO 運営委員、他企画連携
長崎県センター	6/29 現地訪問、2/15 意見交換会にて連携、訪問	R3 助成金説明会広報連携
長崎市センター	6/29 現地訪問、2/15 意見交換会にて連携 10/15 ながさきエコライフフェア出展	R3 助成金説明会広報連携 R4 意見交換会、啓発イベント出展
佐世保市センター	3/24 現地訪問	
熊本県センター	4/22 打ち合わせ対応、2/15 意見交換会にて連携	学び合いプロジェクト講師依頼 過年度推進員 SDGs 研修協力、地域啓発連携
熊本市センター	10/13 球磨村森電力についてヒアリング、 11/30 センター長打合せ	
大分県センター	7/20 打ち合わせ対応、11/28 全国センター平田氏訪問同行	ESD センター委員、ESD ミーティング開催 過年度推進員 SDGs 研修協力
宮崎県センター	4/25 打ち合わせ対応、11/29AM 全国センター平田氏訪問同行	過年度推進員 SDGs 研修協力
鹿児島県センター	8/3 現地訪問、11/26 開催カーボンニュートラルフェア in かがしま 出展。	地域 ESD 拠点登録 過年度推進員 SDGs 研修協力、啓発イベント出展
沖縄県センター	4/15 現地訪問	地域 ESD 拠点登録、他企画連携

## ②ブロック会議への参加

行事名	令和4年度 第1回九州・沖縄ブロック会議
目的	今年度の地域センターの取り組み状況を共有するとともに、全国センターの施策等に基づく研修を行い地域センターの資質能力を向上させる。 また、関係機関との情報交換・ネットワーク形成を図る。
開催日等	日時：令和4年7月15日（金）13:30-16:30 会場：なみきスクエア（福岡市）： 開催形態：対面・オンライン併用 主催：全国温暖化防止活動推進センター 協力：福岡県センター
概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各地域センターの活動報告、今年度の計画について</li> <li>・九州・沖縄ブロックの課題共有</li> <li>・九州地方環境事務所、EPO九州・SDセンターより情報提供</li> <li>・福岡県センターより企業支援ツールの紹介</li> </ul>
意見交換より	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度より中小企業等への脱炭素実現に向けた支援メニューへの対応が求められているが、地域センターレベルでの対応にはノウハウが必要。</li> <li>・企業立地等の関係から相談案件も多い福岡県センターのツールを効果的に活用するなどセンター間の連携が必要。</li> <li>・「九州エコふぁみアプリ」など消費者向けツールの活用についても連携して取り組みを進めてもらいたい。</li> <li>・気候変動教育・ESDについては必要な情報を地域センターに届けてもらいたい。また、言葉の難しさがあるため、わかりやすい教材やカリキュラムが必要。</li> <li>・引き続き、各地域センターの協力の下、ブロック内のネットワークづくりを進めたい。</li> </ul>

行事名	令和4年度 第2回九州・沖縄ブロック会議
目的	今年度の地域センターの取り組みの内、事業者支援の状況を共有し支援ノウハウや今後の課題等について意見交換を行う。 またツール等の効果的な活用についてグループワークを行い、知見を深める。
開催日等	日時：令和5年1月26日（木）13:30-16:30 会場：TKPカーデンシティ博多（福岡市）： 開催形態：対面・オンライン併用 主催：全国温暖化防止活動推進センター 協力：福岡県センター
概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各地域センターの活動報告、今年度の計画について</li> <li>・事業者支援に関する事例やノウハウ共有</li> <li>・環境省による脱炭素支援メニューの紹介</li> </ul>
意見交換より	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業者支援を具体的に担える専門の人材が不足している</li> <li>・県単位での人材には限りがあり、県域を横断したネットワークによる支援体制が必要。</li> <li>・あわせて似たようなツールを各センターで作成するよりも、福岡県センターのツールを共同運用するなど効果的な展開余地がある。</li> <li>・ブロックの中での研修や情報交換、共同発信などについて地方事務所やEPOの協力をいただきたい。</li> </ul>

イ、気候変動教育推進に向けた地域推進体制に関する意見交換

行事名	気候変動教育（地域脱炭素実現に資するESD）推進に向けた地域連携体制推進に関するダイアログ
目的	気候変動教育（地域脱炭素実現に資するESD）推進の方策や地域での関係者間による連携体制構築の可能性を模索することを目的として、地域における脱炭素の推進に係る人材育成について、関係者による意見交換を行う。
開催日等	日時：令和5年2月15日（水）10:00-12:30 会場：サステナプラザ長崎 開催形態：対面・オンライン併用 協力：長崎市センター 参加者：12名
概要	<p>話題提供 COPに見る世界の脱炭素 全国地球温暖化防止活動推進センター</p> <p>情報提供 『脱炭素につながる新しい豊かな暮らしを創る国民運動』の概要及び今後の取組について 環境省脱炭素ライフスタイル推進室</p> <p>情報提供 ESD・気候変動教育について 九州地方ESD活動支援センター</p> <p>意見交換</p>
意見交換より	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域脱炭素の展開には、ボトムアップ型の共感や施策が必要。次世代とのコミュニケーションも交えた工夫が重要になる。</li> <li>・地域循環共生圏という地域のありたい姿（豊かなくらし、ウェルビーイング）の手段として、脱炭素社会の構築があるという考え方を持つことが重要。</li> <li>・普及啓発から実務的な脱炭素への転換、ゲームチェンジに対応するしたたかさが必要。</li> <li>・気候変動だけでなく、防災や主権者教育といった多様な学びの組み合わせの中で理解を深めていく。</li> <li>・用語としての難しさから、議論から離れていく層があり、無関心になっていくことが懸念。</li> <li>・エネルギーの在り方も地域の資源活用と安定供給のバランスなど、複雑である。再エネのポテンシャルはまだまだある。</li> </ul>
写真	

## (5) 地域ぐるみのESD活動の推進

### ア、地域ESD拠点登録の状況（令和5年3月31日時点）

各県に複数の拠点登録を目指すとともに、多様な分野からの登録に向けて重点的な登録周知・呼びかけを行う。

また、基本業務・地域循環共生圏推進業務において実施される場づくり等の情報を積極的に提供し地域ESD拠点のネットワーク活動を活性化させる。

	拠点	主な活動分野	県
1	鹿島市建設環境部 ラムサール条約推進室	地方自治体	佐賀県
2	国立大学法人 福岡教育大学	大学	福岡県
3	大牟田市教育委員会	教育委員会	福岡県
4	公益財団法人 肥後の水とみどりの愛護基金	助成団体	熊本県
5	北九州 ESD 協議会	RCE	福岡県
6	一般社団法人 環不知火プランニング	教育旅行	熊本県
7	認定NPO 法人 地球市民の会	国際協力	佐賀県
8	公益財団法人再春館一本の木財団	助成団体	熊本県
9	一般財団法人沖縄県公衆衛生協会	温暖化防止	沖縄県
10	国立諫早青少年自然の家	青少年	長崎県
11	NPO 法人おおいた環境保全フォーラム 附属はざこネイチャーセンター	環境教育	大分県
12	NGO 福岡ネットワーク	国際協力	福岡県
13	九州大学 水素エネルギー国際研究センター	大学機関	福岡県
14	宮崎県環境情報センター	情報センター	宮崎県
15	NPO 法人 おきなわ環境クラブ (OEC)	環境教育	沖縄県
16	NPO 法人 くすの木自然館	環境教育	鹿児島県
17	そらのまちほいくえん	幼児教育	鹿児島県
18	一般社団法人 沖縄県婦人連合会	女性団体	沖縄県
19	国立阿蘇青少年交流の家	青少年	熊本県
20	屋久島環境文化研修センター (公益財団法人屋久島環境文化財団)	環境啓発	鹿児島県
21	国立夜須高原青少年自然の家	青少年	福岡県
22	一般財団法人 鹿児島県環境技術協会	温暖化防止	鹿児島県
23	特定非営利活動法人 Okinawa Hands-On NPO	環境教育	沖縄県
24	学校法人宮崎学園	学校教育	宮崎県
25	一般社団法人まほろば自然学校	環境教育	福岡県
26	NPO 法人 HUB&LABO Yakushima	環境教育	鹿児島県
27	一般社団法人 やんばんるビジョン	環境教育	沖縄県
28	認定NPO 法人 地域環境ネットワーク	温暖化防止	大分県

※網掛けは今年度登録拠点

## イ、令和4年度登録呼びかけ計画・実績

団体名称	対応・連携等
一般社団法人 やんばるビジョン	運営委員連携にて、今年度拠点登録。
認定NPO法人 地域環境ネットワーク	運営委員連携にて、今年度拠点登録。
大分県 ESD モデル形成ステークホルダー	ミーティング内で制度説明
鹿児島県 ESD モデル形成ステークホルダー	ミーティング内で制度説明
沖縄県 ESD モデル形成ステークホルダー	ミーティング内で制度説明
沖縄県環境活動団体	上記周知を契機に現在登録準備中。
島原半島環境活動団体	研修講師対応にて制度説明
福岡県内 社会教育施設	県社会教育研修センター主催研修にて制度説明

### (6) 全国センターとの連携

全国センターが開催・招集する連絡会に出席し、九州地方センターの取組・成果を発信するとともに地域 ESD 拠点登録の方針や目標設定等について意見交換を行う。また活動状況調査等については積極的に協力・対応を行った。

#### ■連絡会対応

行事名	令和4年度第1回 ESD 活動支援センター（全国・地方）連絡会
目的	全国、及び地方 ESD センターの運営状況や今年度事業展開計画について共有を行い、令和3年度以降、ESD 推進ネットワークが目指す方向性について議論を行う。また全国と地方間で連携して行う具体的なアクションについて共有する。
開催日等	日時：令和4年6月15日（木）10:00-15:00 会場：青山ブックセンター会議室（オンラインと対面の併用） 主催：ESD 活動支援センター
概要	1. ESD をめぐる最近の動向について 地域脱炭素に向けた人材育成について 2. 共有：全国センターの事業について 3. 共有：各センターの事業予定について 4. 全国センター事業：拠点関係、情報関係 5. 気候変動教育に関する共有・議論

行事名	令和4年度第2回 ESD 活動支援センター（全国・地方）連絡会
目的	全国、及び地方 ESD センターの今年度活動状況について共有を行い、次年度以降の、全国と地方センター間で連携について協議を行う。
開催日等	日時：令和5年1月23日（月）13:30-17:00 会場：青山ブックセンター会議室（オンラインと対面の併用）
概要	1. 令和5年度環境省・文部科学省の施策の方向性について 2. 気候変動教育コンセプトペーパー最終案について 3. 次年度以降のセンター・ネットワークの活動について 4. 令和4年度「ESD for 2030 学び合いプロジェクト」報告（地方センター） 全国フォーラム報告（全国センター） 5. 各センターの活動を記載したマトリクスの共有・議論

■全国フォーラム対応（ESD 活動支援センター主催）

全国センターが開催した全国フォーラムにおいて、ESD に関する最新の国内外の動向、ESD 推進ネットワーク形成の状況を共有するとともに、全国各地の実践事例を学び合う中で、九州センターの事例は、ホールロビーにおけるポスターセッションでの事例の経過報告を行った。

行事名	ESD 推進ネットワーク全国フォーラム 2022 実践的・包括的な SDGs 人材育成を目指して～気候変動教育からはじめよう～
目的	ESD 推進ネットワーク全国フォーラムとして、ESD 推進ネットワークの主たるステークホルダーが一堂に集い、ESD 推進ネットワークについて理解を深め、ネットワークの形成を促進するとともに、全国各地の実践事例を学ぶ。
開催日等	日時：令和 4 年 12 月 10 日（土） 12:30-17:00 会場：国立オリンピック記念青少年総合センター カルチャー棟小ホール （オンラインと対面の併用） 主催：ESD 活動支援センター、文部科学省、環境省 協力 ESD を推進する全国・地方の組織団体（出展団体）、 地方 ESD 活動支援センター（北海道・東北・関東・中部・近畿・中国・四国・九州）
概要	<p>◎開会挨拶 文部科学省国際統括官付 国際戦略企画官 白井 俊 環境省大臣官房 審議官 小森 繁</p> <p>◎基調報告 ・文部科学省「国内外におけるグリーンングを含めた ESD の推進」 文部科学省国際統括官付 国際戦略企画官 白井 俊（録画） ・環境省「ESD・人材育成関連施策の最新動向と気候変動教育への期待」 環境省大臣官房総合政策課環境教育推進室室長 河村 玲央</p> <p>◎セッション 1「気候変動を切り口とした ESD の推進」 ・気候変動を切り口とした ESD の推進 【報告】久保田 学（北海道地方 ESD 活動支援センター/ESD 推進ネットワーク可視化タスクフォース委員） 【モデレーター】遠藤 理紗（特定非営利活動法人「環境・持続社会」研究センター/ESD 活動支援企画運営委員）</p> <p>◎セッション 2「気候変動・脱炭素をテーマにした地域事例紹介」 報告 〈東北地方〉島田 智（大仙市立大曲南中学校） 福岡 真理子（一般社団法人あきた地球環境会議） 〈近畿地方〉伊藤 由季（比叡山高等学校） 来田 博美（滋賀県地球温暖化防止活動推進センター） 〈四国地方〉島田 治男（香川県中小企業家同友会） 常川 真由美（四国地方 ESD 活動支援センター） 【モデレーター】白井 信雄（武蔵野大学工学部）</p> <p>◎全体総括 【コメント】遠藤 理紗（セッション 1 モデレーター） 白井 信雄（セッション 2 モデレーター） 及川 幸彦（奈良教育大学 ESD・SDGs センター） 河村 玲央（環境省環境教育推進室長） 【進行】進藤 由美（公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター 国際教育交流部/ESD 活動支援企画運営委員長）</p>

写真



## 5. 外部連携事業（外部資金を活用した取組）

持続可能な社会づくりに向けた協働取組を担う民間団体等の育成に向けて、地球環境基金や民間企業等と連携し組織運営や資金獲得に向けた助言等を行う。また、基金団体等からの外部資金（EPO九州運営業務以外の契約業務扱い）を活用した取組として実施した。

### （1）地球環境基金との連携

環境NPO等への助成や環境活動表彰に取組む地球環境基金と連携し、次の取組を行った。

#### ア、助成金説明会の開催協力

令和5年度助成公募の説明とともに、ESDモデル形成プロジェクトと連動させ、参加した地域の環境保全活動者に向けて、島しょ地域で人材育成の裾野を広げる活動についてパートナー団体から提案するプログラムを実施した。闊達な意見交換の場となり、助成金獲得を志す団体への後押しとなる場作りとなった。

行事名	令和5年度地球環境基金助成金説明会 沖縄会場
目的	地球環境基金による令和5年度助成公募についての説明会を開催し、活動団体への助言や申請についての支援を行う。開催にあたっては、開催地域である沖縄県の中間支援団体や自治体等と連携する機会とする。
開催日等	日時：令和5年11月9日（水）14:00-16:00 会場：Gwave 宜野湾ベイサイド情報センター プレゼンテーションルーム 開催形態：ハイブリッド 主催：独立行政法人環境再生保全機構 地球環境基金部 協力：九州地方環境パートナーシップオフィス、一般社団法人九州環境地域づくり
概要	参加人数：57名 プログラム： 1. 主催挨拶 地球環境基金 森田 将義 氏 2. 話題提供「ESDネットワークについて」EPO九州 澤 克彦 3. 情報提供「海洋教育のネットワークづくり」MIRAIME.Lab 岸信 朋 氏 4. 意見交換 参加者の情報交換やネットワークづくりについて 5. 令和5年度地球環境基金助成事業についての説明
アンケート回答より	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な方々が繋がって、この課題に取り組んでいくことの必要性、EPO九州のことなどとても多くを知る機会としてとても良い機会となった。</li> <li>・意見交換で皆さんが課題として共通している地域参加、担い手教育は、当団体が実施していることが解決につながると認識できた。</li> <li>・リアルとオンラインの併用開催で、実際のやり取り・受け答えもあり、多くの面で参考になった。</li> </ul>
開催状況の写真等	 

## イ、地球環境基金 環境コースフィールド研修への協力

全国から募集した持続可能な環境・社会の担い手を志すユースを対象に、南阿蘇村にてフィールド研修を開催し、行政、官民連携DMO、環境NPO、地域の農家コミュニティ、アクティビティ提供団体などの積極的なご協力をいただきました。

様々な角度から持続可能な地域社会の在り方と課題に触れ、各参加者の今後の活動につながるネットワーク形成につながる有機的な場づくりとなりました。

行事名	地球環境基金 2022 年度環境コースフィールド研修
目的	地域における環境問題の現状を知り、現場での実践的な経験や知見を得る機会を提供する。将来的に環境 NGO・NPO をはじめとしたさまざまなセクターで環境保全に携わる人材を発掘・育成する。
開催日等	<p>&lt;事前研修&gt;            日時：令和 4 年 11 月 12 日（土） 13:00-16:00            場所：オンライン研修（ZOOM を利用）</p> <p>&lt;本研修&gt;            日時：令和 4 年 11 月 21 日（月）-23 日（水） 3 日間            会場：熊本県阿蘇郡南阿蘇村</p> <p>&lt;事後報告会&gt;            日時：令和 4 年 12 月 9 日（金） 13:00-16:00            場所：オンライン研修（ZOOM を利用）            主催：独立行政法人 環境再生保全機構 地球環境基金            企画運営：一般社団法人九州環境地域づくり            協力：九州地方環境パートナーシップオフィス、九州地方 ESD 活動支援センター</p>
概要	<p>参加人数：10 名（研修生 5 名、事務局 5 名）            主な訪問先：俵山峠展望所、道の駅あそ望の郷くぎの、南阿蘇村役場、後藤コーヒーファーム、久石ファーム、熊本地震の震災遺構、みなみあそ観光局、Active Nature Guide あそ Be 隊、NPO 法人田舎のヒロインズ</p> <p>訪問先ヒアリングやワーク等を通じて、地域の持続性向上・環境問題の解決、SDGs 達成に向けた活動の実践事例や課題を学んだ。</p>
アンケート回答より	<ul style="list-style-type: none"> <li>・南阿蘇村で様々な立場からの実践者のお話を聞くことで、地域の魅力や特性をどう見つけ出して活動に取り組むかという姿勢に関して学ぶ部分が多かった。</li> <li>・環境保全や地域の持続可能性を向上させるためには、地域の異業種の方とも協力しながら、地域全体として考えることが重要だと感じた。</li> <li>・とても丁寧に細部まで思いの詰まった研修を企画・運営していただき、環境保全・地域へ貢献するとはどのようなことなのか、深く学べたと感じている。</li> </ul>
開催状況の写真等	 

## ウ、地球環境基金 ステークホルダーミーティングへの協力

行事名	地域課題の解決に向けたステークホルダーミーティング 九州・沖縄地域
目的	<p>地球環境基金が30周年を迎えるにあたり、地域のステークホルダーとの意見交換を行う場をとおして、今後の民間団体等との関係構築、効果的な助成事業等の在り方について論点を深める。</p> <p>テーマ：地域課題の多様化とその解決に向けた活動について</p> <p>地域や世代での広がりのために、どのような取組や支援策が必要か</p> <p>これら活動や支援策について、環境分野はもとより様々な地域課題テーマに関係する中間支援団体やネットワーク活動支援者等を交えた意見交換を行う。</p> <p>(全国3か所開催 北海道、関東、九州)。</p>
開催日等	<p>日時：令和5年3月20日(月) 14:30-17:30</p> <p>場所：リファレンス駅東ビル7F C会議室</p> <p>主催：独立行政法人 環境再生保全機構 地球環境基金</p> <p>企画運営：一般社団法人九州環境地域づくり</p> <p>協力：九州地方環境パートナーシップオフィス</p>
概要	<p>参加人数：17名</p> <p>プログラム</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 開会、趣旨説明、出席者紹介</li> <li>2. 地球環境基金について</li> <li>3. 活動紹介 <ul style="list-style-type: none"> <li>・一般社団法人まほろば自然学校 岩熊 志保 氏</li> <li>・NPO 法人温暖化防止ネット 松尾 真理子 氏</li> <li>・NPO 法人くすの木自然館 浜本 麦 氏</li> </ul> </li> <li>4. 意見交換</li> <li>5. 活動団体の取り組みを側面支援、ネットワーク支援の紹介 <ul style="list-style-type: none"> <li>・北九州 ESD 協議会 山田 大輔 氏</li> <li>・福岡市 NPO・ボランティア交流センター あすみん 中村 善輝 氏</li> <li>・株式会社十八親和銀行 長尾 和弘 氏</li> </ul> </li> <li>6. 意見交換</li> </ol>
開催状況の写真等	

## (2) Green Gift 地球元気プログラムへの協力

### ■成果

東京海上日動火災保険株式会社が取組む、CSR 活動「Green Gift 地球元気プログラム」について企画協力した。

EPO ネットワークが参画する、9 年間にわたる長期協働プログラムとして継続してきたが令和 4 年 9 月末日をもって終了となった。

これまでプログラムに参加した九州各県の環境活動団体においては、活動内容の新規性を獲得するとともに、九州・沖縄地域、及び全国レベルで地域間の活動情報が相互参照され、業務の拡張が行われた。

東京海上日動火災保険株式会社の 3 地域の部支店も本プログラムに主体的に参加し、企画内容への助言や当日の運営、安全管理等に関わることで、地域資源の再発見、地域課題の認識、地域活性化において企業が果たす役割について、具体的な視座を獲得した。

また EPO 九州においては企業との協働プログラムの継続において、環境保全活動を基礎とした地域の担い手育成の焦点化、またマルチステークホルダーによる対話構築のノウハウが蓄積され、他の環境パートナーシップ構築事業との連携に繋がった。

## ア、地域プロジェクトの実施状況

### ①福岡県プロジェクト

実施団体	北九州 ESD 協議会（福岡県北九州市）
打ち合わせ等	<p>■活動団体協議 日時：令和 4 年 5 月 6 日（金） 会場：北九州まなびと ESD ステーション（北九州市）</p> <p>■三者による打合せの実施 日時：令和 4 年 6 月 17 日（金） 形態：オンライン会議 内容：今年度 2 回の体験プログラムの実施に関する合意形成</p> <p>■三者によるふりかえり会議の開催 日時：令和 4 年 9 月 13 日（火） 形態：東京海上日動火災保険株式会社 北九州支店（北九州市） 内容：団体による成果報告及びプログラムの振り返り共有 これまでのプログラム全体の成果について議論</p>
活動成果	<p>2019 年度より実施団体として活動し、新型コロナウイルス感染拡大の状況から、動画コンテンツ等の環境教育ツール開発が主な実績であったところ、今年度は体験活動を主眼とした計画を行い、EPO 九州が支援を行った。</p> <p>北九州地域の自然環境、環境保全に関する活動のうち、これまで実施がなかった地域河川での体験活動と、市内の島しょ地域の視察活動を企画した。</p>
実施プログラム	<p>■紫川プログラム 日時：令和 4 年 7 月 25 日（月） 会場：北九州市水環境館・北九州まなびと ESD ステーション 参加：12 名（運営者含む） 協力団体：北九州市立大学・北九州市水環境館</p>

	<p>内容：</p> <p>小倉北区を流れる紫川で、カヌーを漕ぐ体験をすることで、紫川の水面と一体化した感覚を味わいながら、水辺空間に親しむ。また、紫川の水面から、普段歩いている沿岸部を眺めるという、逆の視点で地域の景観を体感した。</p> <p>アクティビティを通して、複数のカヌーで互いを意識して活動することで、協調性の大切さを学習した。また水環境館の展示水槽等を見学し、生物多様性について参加者が学んだ。</p> <p>北九州まなびとESDステーションでは、紫川の水質を透明度やBODの観点から科学的に調査するとともに、気候変動等で増加している水害対策や防災についての講話を実施した。</p> <p><b>■藍島プログラム</b>  日時：令和4年8月1日（月）  会場：北九州市小倉北区 藍島フィールド・藍島サブ市民センター（北九州市）  参加：8名（運営者含む）  協力団体：北九州市立大学・藍島住民  内容：</p> <p>北九州市沖の響灘に浮かぶ藍島で、島内の産業（漁業）学習とビーチクリーニングを行う。北九州市立大学等協力団体のほか、藍島の住民による講話を実施し、藍島の自然、歴史や産業を学習した。</p> <p>海岸エリアでは浅瀬に棲んでいる生き物の観察や、海洋プラスチックが漂着していることから、ビーチクリーニングを学習アクティビティとして実施した。</p> <p>地域に自然に満ちた島が存在していることを知り、都市とは異なる様相を見つめることで差異を体感し、ふるさとである北九州の「再発見」を参加者の気付きとして提供するプログラムとなった。</p>
<p>写真</p>	<p><b>■紫川プログラム</b></p>   <p><b>■藍島プログラム</b></p>  

## ②大分県プロジェクト

実施団体	NPO 法人 ABC 野外教育センター（大分県杵築市）
打合せ等	<p>新型コロナウイルス感染拡大に対応し、対面型プログラムからオンラインでの活動提供に方針を変更。 EPO 九州による円滑なオンラインサポートと、活動団体の持ち味を生かしたプログラム提供に向けて協議を重ねた。</p> <p>■三者による企画打ち合わせ 日時：令和 4 年 4 月 4 日（月） 形態：オンライン会議 内容：今年度プログラムの実施内容についての合意形成</p> <p>■三者によるふりかえり会議の開催 日時：令和 4 年 9 月 28 日（水） 形態：オンライン会議 内容：EPO 九州による情報提供及び、団体による成果報告 これまでのプログラム全体の成果について議論</p>
開催概要	<p>大分県内の日出町、杵築市において環境課題とアクティビティを関連付けたプログラムを企画し、マルチステークホルダーで運営した。 活動団体が地域で構築したパートナーシップを基に、多様な関係者が協力し地域の担い手である子どもたちとその保護者が、貴重な地域資源と課題解決に向けた取り組みの重要性を認識した。</p> <p>■ハーモニーパーク竹林エコアクション～里山散策&amp;竹クラフト体験～ 日時：令和 4 年 5 月 21 日（土） 会場：ハーモニーパーク竹林（日出町） 参加：25 名（運営者含む） 協力団体：日出町アマチュア竹工・大分県公園生活排水課・ハーモニーランド 内容： 参加者が身近な里山・竹林での活動に親しみ、再生可能なモノづくりについての問題・課題について学ぶ機会をプログラムとして企画した。 活動として、管理されたハーモニーパーク竹林散策をし、竹を切り倒し、竹を使ったおもちゃ作り体験を、現地竹工と連携して提供した。 竹工からその他の竹製品などの紹介を行い、近年課題となっている竹林荒廃とその保全、再生可能な素材の重要性についての講話を提供した。</p> <p>■きつきビーチエコアクション ～海洋プラごみ学習会&amp;ビーチコーミング&amp;エコクラフト～ 日時：令和 4 年 7 月 23 日（土） 会場：住吉浜リゾートパーク（杵築市） 参加：38 名（運営者含む） 協力団体：NPO 法人 OWS・日本カブトガニを守る会大分支部 内容： 活動団体のフィールドである住吉浜で、参加者が海辺に親しむとともに、近年関心が高まる海洋プラスチックごみ漂着についての問題・課題について学びを深める</p>

	<p>プログラムを提供した。また漂着物をビーチコーミングで収集し、素材としてエコクラフト体験を行った。</p> <p>プラスチック製品の削減のため生活で利用できる「蜜蝋ラップ」製作体験をとおり、生活と環境課題の関りについて子どもたちが考える機会となった。</p> <p>住吉浜周辺に生息するカブトガニについて、協力団体を講師に生態や環境保全とのかかわりについて講師が説明するセクションを設け、生物多様性に関する関心を喚起した。</p>
写真	<p>■ハーモニーパーク竹林エコアクション（日出町）</p>  <p>■きつきビーチエコアクション（杵築市）</p> 

### ③宮崎県プロジェクト

実施団体	NPO 法人大淀川流域ネットワーク
打合せ等	<p>■三者による企画打ち合わせ 日時：令和 4 年 9 月 7 日（水） 形態：オンライン会議 内容：今年度プログラムの実施内容についての合意形成</p> <p>■三者によるふりかえり会議の開催 日時：令和 4 年 11 月 4 日（金） 会場：東京海上日動火災保険株式会社 宮崎支店（宮崎市） 内容：EPO 九州による情報提供及び、団体による成果報告 これまでのプログラム全体の成果について議論</p>
	<p>新型コロナウイルス感染拡大に対応した GreenGift 地球元気プログラムの活動内容のうち、ツール開発として活動団体による動画コンテンツ制作を支援した。</p> <p>宮崎県を流れる大淀川流域の自然環境、環境保全、そして防災に関する活動を動画として紹介する目的から動画を活動団体が作成し YouTube で公開した。</p>

	<p>動画の作成に当たっては、東京海上日動宮崎支店と活動団体とともに三者協定を結ぶ宮崎県、地域の管理等を行う宮崎市が協力し、行政による環境政策の面から資料提供を行った。</p> <p>また一級河川として大淀川を管理する国土交通省宮崎河川国道事務所が、資料や映像素材の提供を行い、防災や河川管理の側面で貴重な情報を盛り込んだ。</p> <p>昨年度制作した動画コンテンツと比較して、今年度は水害対策と防災にも脚光を当て、降雨体験装置体験を河川国道事務所の協力のもと動画収録した。</p> <p>協定を基にした、宮崎県の本プログラム展開の特色を活かしたコンテンツとなり、活動団体の今後の事業に活用されるほか、団体の特色を発信する動画として優れた教材が完成した。</p> <p>EPO 九州では関係者の協働を促進するとともに、具体的な動画制作についても支援を行った。</p> <p>■公開先 NPO 法人大淀川流域ネットワーク YouTube チャンネル <a href="https://www.youtube.com/watch?v=OXehVRaHS24">https://www.youtube.com/watch?v=OXehVRaHS24</a></p>
<p>動画 コンテンツ</p>	

## イ、全国事務局との連携

共催として本プログラムの調整、進行管理を担う日本 NPO センターからの情報提供や EPO 連絡会等における意見交換に協力・参加したほか、支援内容や地域状況の紹介を行うなど、全国振り返り会議の企画運営に協力した。

行事名	GreenGift 地球元気プログラム 全国振り返り会議
目的	GreenGift 地球元気プログラムの全体振り返り会議へ、地方での活動支援を行う EPO ネットワークとして出席。
開催日等	日時：令和 4 年 12 月 16 日（金） 14:00-16:30 会場：オンライン会議 ZOOM 主催：日本 NPO センター
概要	<p>プログラムを共催する日本 NPO センターと協働して、プログラム総括を行う一般社団法人コ・クリエーションデザインより全国でのプログラムの実施状況が共有され、最終年度に展開された各地のプログラムの概要について報告が行われた。体験プログラムの提供やツール開発など、地域資源を活用したプログラムが行われている状況が共有された。</p> <p>最終年度となったことから、今年度の活動だけでなく今期 3 年間のプログラムの所感や獲得されたノウハウ等について、広く地域間で共有するセッションが設けられ、EPO 九州として、各ブレイクアウトセッションにおいて九州地域団体の補足を行うなど、円滑な議論の進行協力を行った。</p> <p>3 年間継続して自然体験プログラムやコンテンツの創出に取り組んだ団体が、意見交換や展望等を語り合い、今後の地域の担い手育成にどのように活動提供団体が寄与するのかについて具体的な意見交換が行われた。</p> <p>&lt;次第&gt;</p> <p>1. オープニング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開会挨拶 特定非営利活動法人 日本 NPO センター</li> <li>・スケジュール紹介</li> </ul> <p>2. プロジェクト 3 年目の成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各地域の実施状況（過去 2 年の比較）と成果</li> </ul> <p>一般社団法人 コ・クリエーションデザイン 平田 裕之</p> <p>3. 報告交流タイム</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①説明（5 分）</li> <li>②第 1 セッション：自己紹介・3 年目の活動紹介</li> <li>③第 2 セッション：自己紹介・GG3 年間で得られたこと</li> <li>④全体シェア</li> <li>⑤EPO からのコメント</li> </ul> <p>4. クロージング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・閉会挨拶 東京海上日動火災保険株式会社</li> </ul>

## 6. EPO 九州の維持管理

EPO 九州の維持管理にあたって、スタッフ体制を整備し、各業務を分担、維持管理に努める。なお、スタッフは積極的に所外での連携促進・協働取組への関与、柔軟な相談対応に努めることとし、窓口（開所）業務については市民への情報提供等に差し障りの無い範囲において執行（必要に応じて臨時閉所対応）する。

運営業務の実施にあたっては、九州地方環境事務所担当官と定例会議を開催し、業務進捗の管理を行う。

### ア、定例会議の開催

概ね月に1回、担当官、運営スタッフ、運営団体による定例会議を開催した。定例会議においては、運営全般に関する事項、個別事業に関する事項の他、円滑な運営に必要な事項を協議する。また、その他必要な事項についてはスタッフミーティングや個別打合せを行い対応した。

開催状況	
着手打合せ	令和4年 4月 12日（火）
第1回	令和4年 4月 22日（金）
第2回	令和4年 5月 20日（金）
第3回	令和4年 6月 23日（木）
第4回	令和4年 7月 19日（火）
第5回	令和4年 8月 17日（水） 基本業務 令和4年 8月 25日（木） 地域循環共生圏業務
第6回	令和4年 9月 15日（木）
第7回	令和4年 10月 20日（木）
第8回	令和4年 11月 17日（木）
第9回	令和4年 12月 23日（金）
第10回	令和5年 1月 18日（水）
第11回	令和5年 2月 24日（金）
第12回	令和5年 3月 15日（水）

### イ、EPO 九州の開所状況

EPO 九州の維持管理には、スタッフ体制を整備し、各業務を分担、維持管理に努める。なお、スタッフは積極的に所外での連携促進・協働取組への関与、柔軟な相談対応に努めることとし、窓口（開所）業務については市民への情報提供等において差し障りの無い範囲において執行（必要に応じて臨時閉所対応）する。

【開所状況】		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	合計
		開所日数	58	63	60	57
来所者数（人）	相談	9	10	7	10	36
	情報収集・受取	0	0	1	0	1
	行事参加	4	0	0	0	4
	その他	2	1	0	2	5
	<b>合計</b>	<b>15</b>	<b>11</b>	<b>8</b>	<b>12</b>	<b>46</b>
パンフレット等 受付 (カテゴリー)	ともに生きる	13	9	7	9	38
	自然・生命	10	10	14	12	46
	ごみ・資源	3	1	4	3	11
	エネルギー・地球温暖化	1	7	6	2	16
	ESD・環境教育	9	14	4	5	32
	助成金・団体支援	4	10	5	6	25
	全国のEPO	2	0	2	5	9
	行政	2	3	2	2	9
	その他	4	5	3	1	13
	<b>合計</b>	<b>48</b>	<b>59</b>	<b>47</b>	<b>45</b>	<b>199</b>